

#### 4. 思想・哲学

##### タオルよ、ありがとう

尾崎氏の座右の銘そして経営哲学は、「小欲知足」である。欲が少なく、わずかなもので満足する、という意味である。

もうひとつ、タオルに込められた尾崎氏の哲学がある。

素直な心で手を合わそう  
タオルに導かれ タオルに見守られ  
タオルに生かされ タオルよ、ありがとう  
みんなのタオルに感謝 タオルの幸せを祈ろう



母キサヨ（写真：尾崎今男提供）

尾崎氏の思想・哲学は、幼いころに母親が教えてくれた、たくさんの言葉に込められている。たとえば、「この世でおきたことはこの世でおさまる」「山より大きなししはでやせん、くよくよするな」「牛の子は黒生まれ、人の子は聰生まれ、ぼうっとしどらあかん」「鳶も餌見な舞、回わん。人間も甘い所がないと人はよってこん」「五月のメバルはもみ種失い」など、挙げれば切がない。

#### 5. 将来に向けたメッセージ

##### 今治そして日本のために、モノづくりに純粹に向きあってほしい

およそ20年前、今治タオルは中国などの海外製品におされて戦後最大の危機に直面した。尾崎氏は、あるタオルメーカーの社長が「今よう動けん経営者は、経営者ではない」とテレビで言っていたことに刺激され、タオルの将来を見据えて工場の海外移転を考えた。中国への永住を覚悟で大連などへ実際におもむき、視察をおこなった。しかし、妻の光

子さんに大反対されて、日本に踏みとどまる決心をした。「そういえばいつも耐えて耐えて踏ん張って生きてきたのがタオルにたずさわる人たちの生き方だったなあ」と想い出し、やはり今治のために、最後まで今治でタオルをつくることを決めた。明治時代からずっと今治の人すべてが今治の織物を、そしてタオルを支えてきた。尾崎氏は、その伝統を守ることが自身の使命であるとして、海外進出をやめ今治でいまでもタオルを作りつづけている。

現在は（株）三光産業の会長として第一線を退き、長男の哲也氏が経営を引き継いでいる。第一線を退いたが、タオル製織の技術にかける思いは、1ミリたりとも変わっていない。

2012年夏のことである。尾崎氏は、将来に向けたメッセージとしてつぎのような「メモ」を書いてくれた。「わたしは、世界でもっとも綿糸のバランスのとれたタオルの製作に心を注いでおります。使いやすい、なんとなく心やわらぐ、肌にそって幸せを感じさせてくれるタオル。口では表現できない、使ってみないとわからない、バランスのとれたタオル。昔、2本パイル（ビーム）の製造を考え実行したときがあります。糸の張力のバランスに尽力しました。でもいまだに自分でも納得できません。技能士会の新居田さんにも相当な努力をお願いしましたが、いまだ未完です。」尾崎氏のタオル技術への探求は進行中なのである。

そして将来、タオルの伝統をうけ継ぐ人たちに、「今治のタオル技術を統一し、地場産業に育て上げた先人の行動力を学び守って、まさにタオルに導かれた我らであらねばならぬという気持ちを大切に、今治そして日本のために、モノづくりに純粋に向きあってほしい」と尾崎氏は願っている。「心こそ 心迷わす心なれ 心に心 心ゆるすな」（沢庵宗彭）である。（完）

（文責・インタビュー：辻智佐子）

## 編集後記

「タオルびと」プロジェクトを立ち上げようとおもったきっかけは、尾崎今男さんとの出会いでした。数年前、地域産業研究の一環で、高度成長期における今治タオル工業の発展について研究していたとき、今治市立図書館に勤務している友人に当時の技術者の方にお話をうかがいできなかと相談をもちかけました。そして、友人のネットワークで尾崎さんを紹介してもらいました。

日本のモノづくりの原点は、人びとのつよい思いのなかにこそあり、すぐれた技術はそれが形になったものではないか、結局は人なんだと、あらためて実感させてくれた出会いでした。訪問の際、会社の工場の近くにあるお寿司屋さんでお昼をごちそうになり、地元のおいしいお寿司をいただきながら、みいちゃん（尾崎さんの妻の光子さん）にかけた苦労話をお聞きしました。そのときに印象に残った言葉があります。「幸せとは感謝する気持ちのことです」と。仕事をこえて人との出会いがわたし自身を成長させてくれる、そうおもった瞬間でした。尾崎さんがこの世でもっとも感謝する人、みいちゃんが見守るなか、終始笑顔でお話をしてくださいました。われわれ後輩のためにもまだまだやるべきことはたくさんあります。できるだけ長生きをしてその思いを多くの人たちに伝えていってください。最後に、この出会いに感謝の意を込めて、タオルよ、ありがとう！（辻）



尾崎今男氏と妻の光子さん

## 次回の「タオルびと」

世界一のタオルの産業集積地である今治は、輸入タオルの増加によって1990年代初頭から深刻な危機に直面した。この危機に早くから警鐘を鳴らし、冷静にかつ情熱をもって立ち向かった人たちがいた。そのひとりが当時四国タオル工業組合理事長であり、JAPAN ブランド育成支援事業を牽引した藤高豊文氏である。「タオルびと」の二人目はこの藤高氏をクローズアップし、今治タオル再生へのシナリオを追う。

## 追記

「タオルびと」構想のきっかけを与えてくださった尾崎今男さんが、2015年4月5日にご逝去されました。享年83歳でした。タオルを愛しタオルに人生を捧げた尾崎さん。最後まで感謝の言葉を口にしながら、安らかな眠りにつかれました。お会いするたびにニコニコして「幸せとは感謝する気持ち」と言っていた尾崎さん。その言葉を忘れずに、人との出会いに感謝し、これからも「タオルびと」をつづけていきたいとおもいます。「今男さん、ありがとうございます！」